

研究部通信



第 2 号
平成 28 年
5 月 23 日

「ねらいをもつ」とは・・・

先生方、運動会本当にお疲れ様でした！チーフの野口先生から「一人一人の子どもが主役となり、輝けるような運動会にしたい」というお話がありましたが、学部・学級の子どもの様子はいかがだったでしょうか？たくさんの笑顔や頑張り、成長が見られたなら嬉しいです。

さて、今回の運動会には、単元全体を通した全体のねらいとして次の 3 つが設定されていました。

- ・平素の学習を発表し、体力の向上や運動に対する意欲を高める。
- ・集団の一員としての自覚を高め、協力して準備や演技に精一杯取り組む。
- ・本校・訪問児童生徒、保護者、松の聖母学園、交流学校の児童生徒、教職員がともに楽しく演技する中で交流を深める。

3 つのねらいのキーワードとして「体力」「意欲」「集団への所属感」「協力・協調」「精一杯」「交流」等が挙げられると思います。そこで、本単元において授業を進めていく際には、これらのキーワードを各学部、学級の全体的な実態や、学級の中の A 君、B さん・・・といった個別の実態に当てはめて考えたりしていくことが必要となります。どの子どもにも等しく全てのキーワードを網羅する必要があるのではなく、一人一人の経験の程度や障がいの状況等に応じて優先順位を考えながら「なにを」「どの程度」狙っていくのかを具体化していくのが「ねらいをもつ」ということです。

先日の職員会の中で今年度の学校自己評価について説明があり、教頭先生から、「努力点は、授業におけるねらいの明確化である」というお話がありました。授業のねらいの設定というのは、通常、事前の計画段階に行うものです。しかし、学習を実施する過程において、子どものねらいが高すぎたり低すぎたりすることもありますので、柔軟に修正を加えながら学習を進めていくことも大切です。

さらには、計画通りに進んでいるのかを定期的にチェックしたり、総括したりしていかなければ、「計画しっぱなし」で終わってしまうことになります。そこで重要なのが「学習評価」です。例えば、今回の運動会を振り返り、成功であったかどうかを判断する際には、先ほどの 3 つのねらいの達成状況を評価する視点が重要となります。「練習と本番を通じて A 君の体力が向上した」「B さんは友だちと協力して係の仕事をした」等、単元全体を通して児童生徒の具体的な姿や成長がどうであったかを評価していくことが、その後の指導目標の設定や支援の改善、さらには来年度の運動会単元の計画や運営、演技プランの計画等にも繋がっていくからです。

私は、料理人がその日の食材を見ながらお品書きを立てたり、建築士が顧客のニーズに応じて設計図を考えたりすることと同じように、教師が子どもの実態に応じて、最高の力を引き出すための授業づくりを計画していくことが、今後益々重要になってくるだろうと考えています。今後も授業づくりの参考としていただけるように、研究部としても色々な情報を提供していきたいと思っています。

【理論研修会の実施について】～児童生徒のキャリア発達を支援する授業づくりって??～

①平成 28 年 5 月 27 日（金）午後 4 時～5 時 高等部段階におけるキャリア教育

②平成 28 年 6 月 3 日（金）午後 4 時～5 時 小・中学部段階におけるキャリア教育

※講師：竹林地毅先生（広島大学） 場所：高多目的室（スカイプを使つてのオンライン講義）

※実際的には小・中・高とつながっていく内容ですので、連続して参加いただいても大丈夫です。